

アイヌの人たちの歴史・文化

住居

チセ(家)の建て方

チセを建てる土地の選定にあたっては、海や川近くで、食料や水が豊富に得ることができ、しかも洪水や山津波、崖崩れなどの危険がない場所が選ばれました。同時に場所を定めるには、その土地がチセに適しているかどうかを夢占い*1もします。土地が選定されると、村の人が総出で整地を行い、チセの柱や壁材、屋根材となるカツラ、クリ、萱、笹*2、樹皮など、その地方で豊富に調達できるものを採集します。

チセの建築は、まず地面の上で屋根組をつくることから始まり、次に柱を建てます。柱は掘立で先がY字形の受け状になっています。こうして骨組ができると、柱に丸太で組んだ屋根をあげ、骨組の木をブドウツルやシナノキの内皮でつくった、縄などをつかって結びつけます。壁や屋根の材料は、あらかじめ採集してある萱、笹*2、樹皮などを使い縛りながら葺いていきます。チセの回りには雨水が入ってこないように溝が掘られ、壁に少し土盛りをします。チセの他にミンタラ(庭)、祈りの場であるヌサ(祭壇)、アシシル(便所)、物干し、食料を蓄えておくブ(倉)などがあります。

- *1 建て主の約7日間の夢の良し悪しで判断します。
- *2 笹を材料としてチセを建てるのは旭川と旭川周辺、道央部

チセの内部

チセの中央にアペオイ(炉)があり、その両側が居間と寢床で家族や客の座る場所も決まっています。炉の中心には、「アペフチカムイ(火の神)」がいて考えられています。一家が安全にそして平和に暮らせるように見守っていると信じられていました。炉の火は絶やすことはありません。


さらに奥には宝物置場があり、神々の出入りする「神窓」があり、神窓は「アペフチカムイ」と「ヌサ」の神を結ぶ神聖な窓として位置付けられています。また2つの明かりとりの窓があります。

チセノミとチセコロカムイ

3~7日ほどでチセが完成するとコタンの人々や親せきを集めて「チセノミ(新築祝い)」が執り行われます。チセに魂を入れ、さらに家庭での生活の安全を祈る儀式です。人々が集まると、長老が炉にはじめて火を入れます。そして「チセコロカムイ(家の守護神)」のイナウ(木幣)を作り屋内の宝物置場の上隅に安置します。


コタン

人々は村おさを中心に「コタン」と呼ばれる村をつくりました。そのコタンには数軒から十数軒のチセが立ち並んでいました。



< 復元されたチセ、食料庫、祭壇 >

< チセの内部、左座、右座は上座より左が左座、右が右座です。 >



ヌサ(祭壇)

((財)アイヌ文化振興・研究推進機構より)

【出典】『アイヌ文化の基礎知識』 (財)白老民族文化伝承保存財団発行
『ボン カンピソシ』アイヌ文化紹介 小冊子4、住まい 北海道立アイヌ民族文化研究センター編

アイヌ語 豆知識

今回は、住居に関連するアイヌ語の一例を紹介します。

アパ(apu) = 戸 ソ(so) = 床 イクシペ(i-kus-pe) = 柱 セム(sem) = 物置 アペ(ape) = 火
 キナ(kina) = 敷物(鶴川・旭川地方の言い方) アペパスイ(ape-pasuy) = 火箸
 イヌンペ(inumpe) = 炉ぶち ロルンブヤラ(ror-un-puyar) = 神窓(上座の窓) プヤラ(puyar) = 窓
 チセキタイ(cisekitay) = 屋根 セマパ(sem-apa) = 入り口、玄関

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂

上川教育局の10年経験者研修における取組

上川教育局では、毎年、10年経験者研修「選択研修」において、伝統や文化に関する講座を設けています。

ねらい

アイヌの人々の歴史や伝統、文化に関する体験的な研修を通して、文化の多様性を理解し、アイヌ民族の文化等について理解を深める。

講師

川村カ子トアイヌ記念館館長及び副館長

主な活動内容と資料

講義「アイヌ民族の歴史と文化」

川村カ子トアイヌ記念館館長に「アイヌ・モシリ年表」をもとにアイヌ民族の歴史と文化について講義をしていただきます。

西暦2000年	アイヌ文化館
1999	ユカラ(夏季祭)形成される
1998	経典、民謡の人等を保護するも、東北アイヌ・アムルイに脱北する(岩手県水沢市)
1997	アムルイ女子、京都の博覧会に大観で参加される
1943	和人によるアイヌ・モシリへの移住始まる
1937	コシヤマの戦争 官給のアイヌ人口は50万人
1933	10月23日 新設、ラフカヤの戦争の最中ラフカヤ(イロモ)を襲撃
1789	メナシ・アチシで戦争
1828	文政5年
1808	明治2年
1884	明治17年
1883	アイヌ
1885	明治18年
1887	明治20年
1897	明治30年
1909	明治42年
1919	明治52年
1929	明治62年
1934	昭和9年
1939	昭和14年
1945	昭和20年
1954	昭和29年
1959	昭和34年
1967	昭和42年
1969	昭和44年
1971	昭和46年
1975	昭和50年
1979	昭和54年
1984	昭和59年
1987	昭和62年
1989	昭和64年
1994	平成6年
1999	平成11年
2007	平成19年

体験活動1「アイヌ民族の言葉と歌」

アイヌ民族の言葉や歌について身近にあるアイヌ語の地名を学んだり、誰もが知っているメロディの「大きな古時計」をアイヌ語で歌ったりします。

体験活動2「アイヌ民族の踊り」

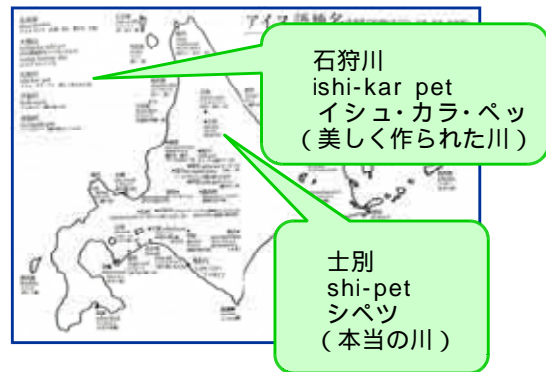
アイヌ民族の踊りは、古式舞踊の「鶴の舞」等を参加者全員で輪になり、楽しく踊ります。

体験活動3「ムックリづくり」

アイヌの人たちの代表的な楽器である「ムックリ」を製作し、参加者全員で簡単な合奏に挑戦します。

参加者の感想

- ・自然を大切にしながら、自然と共に生きてきたアイヌの人たちのくらしや考えを知ることができ、このことを子どもたちに授業を通して教えたいと思いました。
- ・初めてアイヌ民族の歌や踊りを体験し、神聖で厳粛な雰囲気を感じ、子どもたちに伝え、後世に残すべき伝統・文化だと感じました。



アイヌの人たちの歴史・文化等に関する関連施設の紹介

	住所	電話番号	ホームページアドレス	特徴
平取町立二風谷文化博物館	沙流郡平取町二風谷55	01457-2-2892	http://www.ainu-museum-nibutani.org/	国の重要有形民俗文化財に指定された民具を展示しているほか、ムックリ製作や演奏体験、木彫体験、刺繍体験、古式舞踊の鑑賞などの各種体験学習ができます。
萱野茂・二風谷アイヌ資料館	沙流郡平取町二風谷79-4	01457-2-3215	http://www.ainu-museum-nibutani.org/sryoON.htm	国指定重要有形民俗文化財の資料を常設展示しているほか、アイヌ民具とともに、世界の先住民族資料や農機(器)などの郷土資料を展示しています。